

## 立川市 上砂児童館

### 子どもが主体となって企画、準備、運営を行う「わくわくこどもまつり」の開催

#### 取組の背景・目的

新型コロナウイルス流行により、子どもたちが楽しみにしている「まつり」が自粛となりました。子どもたちにとっての4年間は本来成長するに必要な経験、体験が減りました。がっかりしたり、落ち込んだり、あきらめたりする言葉や表現は、この4年間で経験しとても上手に表現します。しかし大きな声で喜んだり、嬉しいことで騒いだりはなかなか経験・体験できる場がありませんでした。そんな子どもたちと今年度の締めくくりに「できる」「やりたい」を実現し、「できた」「やり遂げた」「楽しかった」「嬉しかった」の喜びを一緒に味わうことを目的とします。

#### 取組の概要

(株式会社 明日葉が指定管理を受け運営)

- ・実施日 令和6年3月10日(日)
  - ・実施場所 上砂児童館
- 〈現在の進捗状況〉
- ・子どもたちに呼びかけ実行委員を募集
  - ・R6年1月10日(水)に第1回目実行委員会開催
    - 顔合わせと自己紹介
    - 担当決め
    - 今後の打ち合わせ日程等の決定
    - 各グループの担当職員(子どものフォロー)決定
    - 内容の交流確認
  - ・各グループがそれぞれに企画、計画、準備、に取り掛かる
  - ・ポスターの作成 → 児童館内、学校、地域に掲示のお願いと配布
  - ・チラシの作成 → 児童館のおたよりと一緒に配布。  
市長、議員、学校関係者、地域にご招待状として送付
  - ・取り組みの趣旨を知った保護者より、企画で使用する段ボールの寄付が多くよせられた。その他の備品は、できるだけ児童館にあるものを使っての準備とする。
  - ・準備活動は、児童館利用ができる日に、できる人たちが取り組み、廊下掲示板にて進捗状況を貼りだし共有していく。



## 工夫点・留意点

- ・子どもたちが主体となって企画、計画、準備、当日の運営すべてを行う「まつり」とする。
- ・「まつり」は気になるが実行委員は自信がない、何をしてよいかわからない、当日児童館に来られるかわからない、と言った声が上がリ、実行委員にならなくても準備の手伝いや、開催当日のみのボランティアもOKとした。
- ・ポスターやチラシの作成や配布。来賓の方のご招待状や送付等もすべて子どもたちが行う。
- ・職員は、あくまでも子どもたちのフォロー要員とし、子どもたちの意見にダメ出しはしない。「やりたい」「できる」気持ちを大切に、実現に向けて前向きなアドバイスやフォローを行う。
- ・当日館内全体を使用しての「まつり」とするため、午前中は各場所の準備時間とし、午後からの開催とする。

## 取組の効果

「まつり」の経験の少ない低学年の子どもたちが実行委員となったが、子どもたちの「まつり」のイメージを引き出しながら「こんなこと」「あんなこと」の「やりたい」「やってみたい」が増えていきました。

では、それを実現させるためにどうしたらよいか？ 子ども同士でどんどん意見を出し合い「こうしよう」「あーしよう」が準備につながっています。

最初に取り組んだポスター作りでは、大きな画用紙に字を書く難しさを経験し、1枚目よりも2枚目、3枚目とどんどん上手に仕上げるのが「できた！」につながりました。

1つ1つ経験や体験を重ねる大切さは、職員が言葉にして子どもたちに伝えていきます。

※本番はまだこれからですが、企画、計画、準備が充実することで当日の本番は成功につながると信じています。

## 課題・今後の展開

大人も子どもも初めての取り組みとなりますが「明るく・楽しく・前向きに」目的に向かってコツコツと取り組める行事を目指します。

日ごろから子どもが主体となって児童館の居場所づくりができるよう、今回のおまつりをきっかけに進めていきたいと思えます。

子どもたちの「やりたい」「やってみたい」を実現し、「できた！」を増やします。

自分たちの経験・体験から自信につながる場面を増やしたい。

「やったー」「嬉しい」という気持ちを声に出して喜ぶ場面を増やしたい。

※まだまだ大人が考える行事や運営に子どもたちは満足しがちです。

子どもたちは無限大。今回の取り組みから、子どもが主体（こどもが真ん中）をもっと意識した運営を心掛けていきたい。